

泉州山手線沿道のまちづくり

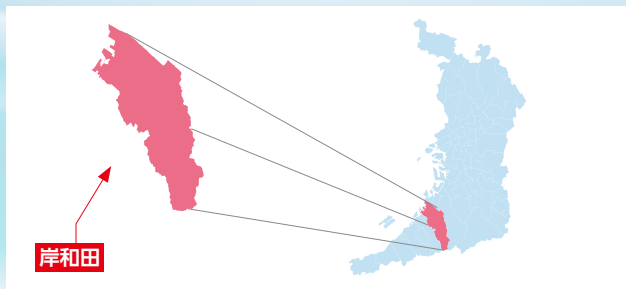
泉州山手線沿道のまちづくりの詳細はこちら



都市計画道路泉州山手線は、大阪都心部と関西国際空港をつなぐ泉州地域の丘陵部を通る広域幹線で、泉州地域のみならず南大阪の魅力を高める新たな交通の軸として計画されています。岸和田市の岸和田牛滝山貝塚線（都市計画道路磯之上山直線）から熊取町の国道170号までの区間（約9.5km）について、大阪府による事業化が予定されており、岸和田市域では、岸和田牛滝山貝塚線から春木岸和田線（都市計画道路岸和田中央線）までの区間が先行着手工区として、両線との結節点となる広域交流拠点のまちづくりと合わせて整備が進められる予定です。

また、沿道周辺に位置する「ゆめみヶ丘岸和田」で行っている、都市・農・自然が融合するまちづくりの取組では、企業誘致や定住人口の増加など新しい“まち”としての機能が発揮されてきていることもあり、泉州山手線と沿道のまちづくりとの相乗効果が期待されます。

泉州山手線は、主に市街化調整区域に位置していますが、沿道のまちづくりを進めるにあたっては都市的土地利用の需要も高いと考えられることから、農地・自然環境の保全に配慮した産業系土地利用を視野に入れ、地域と調和した土地利用計画を進めていく必要があります。



「沿道の有効利用」とともに「交差点周辺の拠点整備」

泉州山手線沿道のまちづくりでは、コンパクトにまとまった拠点が連携することによって、まちの活気、人材の交流・育成につなげることができます。そのため、市内移動の重要な手段の一つとなるバス交通を中心に、将来にわたって、みんなが快適に利用できる公共交通の仕組を構築し、市内全域でうまく連携のとれる体制づくりを進めています。また、既存の道路網と泉州山手線が結節する部分は交通利便性が他よりも優位になり、土地利用の需要が高まることが予測されます。都市計画マスタープランにおいて、泉州山手線沿道については「沿道の有効利用」とともに「交差点周辺の拠点整備」が掲げられています。





■岸和田の新しい拠点、「山直東（やまだいひがし）」から広がる未来

岸和田の新しい拠点となる「山直東」（愛称）では、まちの活性化、にぎわいの創出、交通利便性の向上を図り、持続可能なまちづくりを進めていきます。

岸和田市では、「より便利」、「より暮らしやすい」まちを実現していくために、第一段階として泉北高速鉄道和泉中央駅からのバスなどの公共交通を充実させるなど、より一層魅力を高めるための公共交通軸の形成に向けた取組と、次の100年に向けたまちづくりへの起爆剤として、新拠点交通広場を開設しました。



■新規路線バス（山直線）の導入（令和4（2022）年11月7日実証運行開始）

泉州山手線を含む山手地区における公共交通の再編の一環として、道の駅 愛彩ランド～和泉中央駅間を結ぶ新規路線バス（山直線）が実証運行開始されました。

多くの方に利用していただくことで、実証運行路線が継続的に運行されます。



■山直東地区のまちづくり

泉州山手線の先行着手工区沿道に位置する広域交流拠点である山直東地区（約27ha）では、道路整備に合わせた地域主体のまちづくりが進められています。

山直東地区では、今後のまちづくりの指針となる「岸和田市山直東地区まちづくり基本構想及び基本計画」が地域により策定されました。

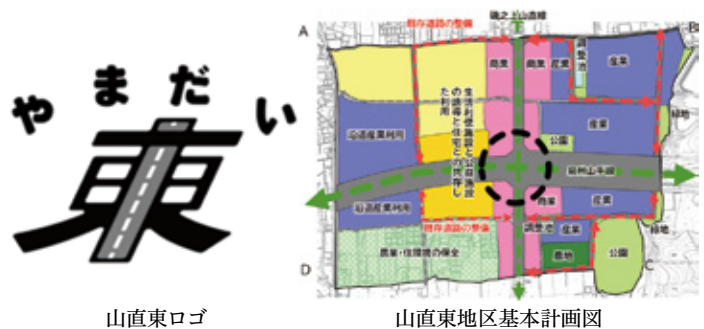
<基本コンセプト>

- ・人、モノ、情報の拠点となるにぎわいのある“まち”
- ・地域を支える産業がある活力のある“まち”
- ・豊かなみどりと、防災性を兼ね備えた安心で安全な“まち”

今後、地域主体のまちづくりを民間事業者の協力のもと進めて行くとともに、「移動がスムーズなまちづくり」を実現していきます。

このまちづくり基本コンセプトを踏まえて、周辺地域と調和した土地利活用を図っていきます。

本地区の東側では、主に土地区画整理事業によるまちづくり（約8ha）の準備が進められています。また、西側では、泉州山手線の進捗に合わせ、周辺公共施設の整備を進めるとともに、沿道利用（企業誘致など）を誘導することで産業・住宅・農業が調和したまちづくりをめざします。



■山直東の取組と期待

岸和田市は、「泉州山手 未来への懸け橋」をキャッチフレーズとして泉州山手線の延伸とともに、広域交流拠点のまちづくりによる山手地区全体の活性化をめざしています。

山直東地区の一部では、土地区画整理事業の事業化をめざし令和5（2023）年7月に準備組合設立、同年12月に業務代行予定者（株式会社フジタ）が決定され、今後、地権者や地域住民と連携・協力し早期事業化をめざしていきます。広域交流拠点のまちづくりとしてスタートする山直東には、地区のポテンシャルを活かし、企業誘致による拠点人口の増加や周辺地域と調和した“にぎわいのあるまち”の実現を期待しています。